
生時短編集

生時(レジェンド)

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

生時短編集

【著者名】

20526F

【作者名】
生時
レジエンド

【あらすじ】

僕の書いた短編シリーズをまとめてみました。

反面マン（前書き）

この作品はコメティイです。

仮面マン

僕の名は永井達也。
高校一年生です。

ある日僕が散歩をしていたら、堤防で一人の老人に声をかけられました。

「少年よ今の荒んだ時代を変えてみんかね?」

「はあ・・・」

「ワシには分かる。お前さんは正義感の強い少年じゃ。だから君に、この変身ベルトをあげる。今ならワシの特製携帯ストラップがついてくるぞ!」

「(なんだこのジーさんは)」

「これはワシが作ったベルトじゃ。これでワシの言つとおりにすれば、君は正義のヒーローになれる。これで世を乱す悪人を退治してくれ」

「スマセン。僕忙しいので・・・」

僕が帰ろうとした時、老人が突然苦しみだした。

「ワ、ワシはもう長くない・・た、頼む・・」

僕は仕方なく老人の言つとおりにしました。

それにもし本当にヒーローになれたらカツコイイし・・・

「分かりました」

そう言つと老人は、元気になりました。

完全に騙されました。

「 まず変身の仕方じや。加藤ちゃんペツをして、アイーンをして、最後にコマネチをするんじや 」

「 ・・・ 」

「 早くせんかー 」

仕方なくやることにしました。

そして、本当に変身する事が出来たのです。

だが、何故かスーツの色はピンクで、しかもミニスカート・・・この老人の趣味が分かつた気がします。

「 よじいこぞー 」 で決めのセコフじや。亀は歯めんよ仮面マン参上じゃ

もつかずかべです。

「 亀は歯めんよ仮面マン参上 」

「 いいぞー まず武器の説明じや。ベルトに差してあるのが仮面ソーデじやー 」

「 ・・・ あの、これただの木刀じや ・・・ 」

「 心配ない。剣の修行に励めば威力は増す。次にバトルスーツの説明じや。どんな攻撃でも、気合いであれば耐える。殴られても耐えるんじや。 」

「 ちよつ・・意味ないじやんかー 」

「 つむれー 最後に仮面レーザーガンじや 」

「 」、これはちゃんとした形をしている。もしかしたら、これだけはまともな武器かも

「 いや、ただのオモチャじや。音がいろいろ変わるから、それで相手を脅かせ 」

「・・・・・」

「おつと、乗り物を忘れていた。ちょっとまつとれ」

しばらくして、ジーさんがバイクに乗つて帰つてきた。

「カツ、カツコイイー！これもくれるんですか？」

「ああ、ただし、改造車だから警察に見つかると大変じや。しかも盜難車じや！」

この老人のほうが、世の中を乱してゐる氣が・・・

「さて、ワシは水戸黄門を見に帰るか」

「待てー！」

「何じや？」

「やはりアンタも世を乱す悪人・・よつて、天誅！」

「ぎやー、助けてー！」

じつして、僕のヒーローとしての活躍が・・・終わりました。

魔法使いの恋愛物語（前書き）

これも「メモ」です。

魔法使いの恋愛物語

私の名はマリー、25歳・・・

実は私、3年前に魔法の国から人間界に来た魔法使いです。人間界での私は、愛野麻里といつ名前で、普段は古本屋でアルバイトしています。

もちろん、誰も私の正体を知りません。

「ま、麻里さん・・・」

今、話しかけてきたのは、バイト仲間で、内木勇氣、私はコウちゃんと呼んでいます。年は私より2つ下です。

見た目は、男の子というより女の子って感じかな。

私が3年前にこのお店に入つて、その2ヶ月後に彼が入ってきたの。内気でおとなしいけど、優しくて真面目な男の子。

私にとって、かわいらしい弟のような存在かな。

「あ、あのバイトが終わつたらカラオケにでも行きませんか?」「いいわよ」

他のバイトの人達も誘つてけど、皆用事があるため、結局一人で行くことになりました。

カラオケというのは、私の国には無かつたけど、これがけつこうストレス解消になります。

「あ~、すつきりした。」

「麻里さん」

「何?」

「ほ、僕、なんのとりえも無いけど、でも貴女のことが、す・・好きです！もし良かつたら、付き合つてください！」

さすがに驚きました。

彼のことは嫌いじゃないのですが、私は魔法使い・・・本気で付き合つなら、隠し事はしたくありません。

「ありがとうございます。ユウちゃん。すゞく嬉しいわ。でも私、普通の女の子じゃないの」

「どういうことですか？」

「私、魔法の国からこの世界に来た魔法使いなのよ

「ほ、ほんとですか？」

「ホントよ。私は人間界に興味を持ち、そして3年前にこの世界に来たの」

ふと見ると、私たちの前にケガをした猫がいた。

「これくらいの傷なら私の力でも治せるわ

普通の人間の前で魔法を使ったのは、これが初めてです。

「いやー

「よしよし。もう大丈夫だからねー

「ホントに魔法使いだったのですね」

「そうよ。こんな女と付き合える？」

「はい！僕は、麻里さんが好きです

彼の目は本気でした。

「でも、ちゅうど良かつたです。」

「何が？」

「僕もこの世界の人間じゃないので・・・」

「どういうこと？」

「僕、遠い星からこの地球にやつて来た宇宙人です。」

「ウソだ！」

「ホントですよ。僕はこの星に興味を持ち、そして3年前にこの星にきました」

「・・・」

「ふと見ると、僕たちの前にケガをした人面犬がいますよ。」

「い、いつの間に・・・」

「これくらいの傷なら、僕の星の科学で治せます」

「何・・・あの見たこともない道具は・・・四次元ポケットでも持つているのかしら・・・しかし、宇宙人が人面犬の傷を治すなんて・・・」

「地球で僕の星の道具を出すのは、これが初めてです」

「ほつといてくれ」

「よしよし。もう大丈夫だからね～麻里さん、人面犬つて、ほんとに喋るんですね～」

「・・ホ、ホントに宇宙人だつたのねえ」

「はい！これで僕と付き合つてもらえますか？ちなみに私の本名はエイリ＝アントニオ・スペース・ビックバーン・ラララマン一世です」

「・・や、やはり住んでる世界が違うのでお断りします」

まさか私が驚かされるとは・・・

私の本物の恋（前書き）

これは恋愛です。

私の本当の恋

押忍！

私の名は河井美華。

高校一年（ほとんど行ってないが）特技は武道。

彼氏はもう一年くらい、いない。

ある日、暇つぶしに、喫茶店に行つたら、同じ学校に通つ中村正一がバイトをしていた。

「み、美華さんいらっしゃい」

「アイスティー」

「は、はい」

中村は、見た目は女みたいな感じの男だ。

学校ではよくいじめられているから、何度か助けたことがある。

「アイスティーです」

少し震えた手で私に差し出して來た。

「ありがとよ」

「あ、あの・・いつも助けてもらつたお礼に、今度の日曜にどこか遊びにでも行きませんか？」

「それつて私とデートがしたいってこと？」

「あつ、そのお世話になつてるお礼・・・」

「・・・まあ、暇だしいいよ」

理由はどいつもか、「ヨイツから誘われるとは思つてもいなかつた。

そして約束の日・・・

彼は約束の時間と場所にすでに来ていた。

映画を見て、食事をし、それからカラオケに行つた。カラオケくら
いは出すつもりだったが、結局全て彼のおごりになつた。

「あ～楽しかつた」

「美華さん」

「何？」

「僕、なんの取りえもないですが、その・・貴女の事が前から好き
でした」

さすがに驚いた。

「私のどこがいいの？」

「優しいし、綺麗だし・・・だから好きです」

「ヨイツの田は本気だつた。

今まで付き合つた男たちから本気で好きと言われたことはなかつた。

「私軟弱な奴は嫌いなの」

「・・・そ、それなら僕を強くしてくれとい・まず自分の身くらい
守れるように鍛えて下さい！」

「・・・なら田を閉じな

「はいー！」

彼は震えながら田を閉じた。

そして私は、彼に優しくキスをした。

「み、美華さん！？」

「私の彼氏にふさわしい男にしてやるよ」

「はい！」

もしかしたら、これからが私の本当の恋なのかも・・・

私の本当の恋（後書き）

この作品を評価していただいた先生から、連載にしてはどうですか？と、アドバイスをいただいたので、こんな感じのストーリーで書けたら書きたいと思います。

TRUE LOVE (眞愛)

これは詩です。

TRUE LOVE

激しく今抱きしめたい 壊れるくらい刺激な愛を・・・

あの時君と出合つて、君をいつも愛した

涙のような雨の中で、凍える貴女を抱きしめた
でも君は震えていた

君の瞳は悲しく、どこか淋しい瞳をしている
それでも優しい瞳

いつかは終わりが来るのか？

僕と君の愛が終わるのか？

君は華のように散つていいくのか？

それが僕と君との運命なのか？

激しく今抱きしめたい 今まで以上の刺激な愛を・・・
たとえ今は別れても、二人の愛に終わりはない

光のない闇の中で、それでも明日を信じている
強く生きる君の姿

それでも終わりが来るのか？

僕と君の愛が終わるのか？

君は華のように散つていいくのか？

それが僕と君との運命なのか？

激しく今抱きしめたい 終わりがいつか来る日まで・・・

激しく今抱きしめたい 温もりがいつか消えるまで・・・
激しく愛した二人 再び出会う事が出来たら、もう別れる事はない・
・

TRUE LOVE 本当に君は

TRUE LOVE 羽ばたくのか？

TRUE LOVE 君の瞳が静に今

TRUE LOVE 悲劇とともに閉じていく・・・

いつか会える日まで

いつまでも愛し続ける

この詩は、去年レジョンンドの曲のために、僕が作詞したのを一部変更し、載せました。

タイトルもTRUTHだったのですが、TRUE LOVEに変更しました。

この詩は、心から愛した女性を失うが、それでも、愛し続ける。いつか会えるというのは、刻が流れ、来世で出会い、再び愛が始まること。男性はそう信じ、彼女だけを愛す。そんな意味を持つ詩です。他にも今まで作った詩を載せていきたいと思います。

お知らせ、8月から生時への質問「コーナーをやっています。

第1回と第2回の発表は「ホープ～まだ見ぬ明日にも希望を～」に載せています。

もし質問がありましたら、メッセージを送ってください^_^

生時

TRUE LOVE (後書き)

「ひのアラムの京も活動し始めました。

バトルマン（前書き）

「これもコメティーです。」

バトルマン

僕の名は神谷正、高校一年生です。
僕はいつも平和を願っています。

だが、どんなに時代が変わろうと、悪人が消える事はありません。
僕はそんな悪人と戦うために、正義のヒーローに変身出来るベルト
を完成させました。

これで悪人と戦いたいと思います。

深夜・・・

僕はお腹が空いたので、近くのコンビニにカツブラー門とエロ本
を買いに行きました。

僕がエロ本を選んでいたら、

「金出せ！」

と、拳銃を持つ強盗が現れました！

早速僕の出番です！

「皆さん、安心してください！僕が皆さんを守ります！」

「クソ餓鬼！おとなしくしろ！」

「黙れ！悪党！変身、バトルマン・・・あれ・・・」

びつじた事でショウ・・・変身できません。

「（実験の時は何度も変身できたのに、何故！？もしや、電池切れ
！？）そりゃあ、テレビのリモコンの電池がなくて、その時、ベル

トの電池使つたんだ。しかし、ijiはパンジーだ。電池は売つてい
る。」

「早く金出せ!」

「店員さん、お金はあとで払います。今は電池が必要なんです」

急いで、電池を交換し、今度こそバトルマンに変身し、アイツを倒します！

「へんし・・」

デナリーン！

し、信じられません・・・僕が変身する前に撃つなんて・・・
僕の中では、悪者はヒーローが変身するのを待ってくれるモンだと
思っていたのに・・・

薄れ行く意識の中で、犯人の逃げる姿が・・・

耳元では店員が、

ハ、聞かせやがね。

それよりも・・ナースムーンのDVD、昨日返すの、忘れ・・た・・

「お客様！電池代！」

こうして僕のヒーローとしての活躍・・・いや、人生そのものが終わりました。

バトルマン・・・コンビニでカップめんとH口本を買いに行き、強

盗に撃たれ戦士・・・

享年16歳

バトルマン（後書き）

「」この作品は書いていて、楽しいです^_^

バトルマン2（前書き）

バトルマンの続編です。コメディーです^_^

バトルマン2

僕の名は神谷学。中学2年生です。

僕の兄はバトルマンとして、悪と戦い戦死しました。

僕は兄の遺志を継ぎ、バトルマン2号となり、悪と戦う決意をしました。

深夜・・・

僕は兄の変わりに、ナースムーンのDVDをレンタル屋に返しに行き、電池代を払うついでに、タバコを買いにコンビニに行きました。

「いらっしゃいませ！」

「兄の変わりに電池代払いにきました。あと、マイセンを一つ

「すいません。未成年の方にはタバコを売ることは出来ません」

なんてケチな店なんでしょう。

仕方なくエロ本を立ち読みする事にしました。

その時です！

「全員動くな！おい！金を出せ！」

「（また、うちの店に強盗が入ってきたよ。あの兄弟は疫病神だな・・・）」

店員は二人、お客は僕を合わせて六人、相手は拳銃を持っている凶悪犯です。

顔はマスクとサングラスで隠し、やや小太りの男性です。

「皆さん、安心してください！僕が犯人をやっつけます！」

兄は、ベルトの電池が切れてたため、変身する前にやられてしまつたが、僕はベルトを改造し、電池がなくとも変身出来るよ‘‘にしました。

そのかわり、アイーンを3回して、コマネチをしなければ、変身出来ません。

「アイーン、アイーン、アイ…」

「キューン！」

「まだ変身していなしに撃つなんて…」

「つむせーー早く金出せーー！」

このままでは兄と同じパターンになつてしまします。
それでは、読者に申しわけないので、気合を入れて変身して見せます。幸い急所は外れましたし…

「アイーン、アイーン、アイーン、コマネチー！」

一瞬黄金に光、そしてバトルマンに変身出来ました。
何故かバトルスースの色はピンクで、しかもミニスカート…
これは「仮面マン」と同じパターン…・・・読んでない人は、読んでください！

「行くぞー！悪者！バトルレーザーガン！」

「ビビビー！」

だが、初めて使うため、犯人の後ろのオバちゃんに当たつてしまつ

た・・・

オバちゃんは倒れ、僕の方を睨み、

「IJの悪党が・・・」

と、言い残し、息を引き取つた・・・

これが戦い・・・

「オバちゃんの仇！覚悟しろ！」

「お前が殺したんだろ？」

「つるわーーー！うなつたら、バトルキャノン砲でお前を殺す！

「お密れん、やめてください！店が壊れます」

「発射！」

「ドーンー！

ついに悪者を退治しました。

だが、戦いとはむなし・・・

この戦いで、たくさん人の罪のない人たちが、犠牲になつてしまつました。

しばらくすると、警察の方が来ました。

「IJ苦労様です！悪人はこのバトルマンが退治しました！」

「そうか・・・言いたいことは署で聞こつ

そつひとつて、僕の手に手錠が・・・

僕は警察に逮捕されました。

何故逮捕されたか分かりませんが、困ったのは、HDDVVの返却
が今までとこづいことです。

バトルマン2号・・・無差別殺人の容疑で逮捕される。

死者は、犯人一人、店員一人、お客様五人、さらに近所に住む住人や通行人二十九人である。

後に、バトルマン事件とよばれる事件である。

バトルマン2（後書き）

ついに「ナースームーン」の小説書いたら、と前から言われてるんですけど、なかなかストーリーが思いつきません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0526f/>

生時短編集

2010年10月21日22時40分発行